

令和3年度 香南市立保育所評価報告書

香南市立吉川みどり保育所

| 経営理念     |                                                | 【保育目標】 あふれる笑顔 ともだち大好き みどりっ子<br>【経営目標】 豊かな経験や体験を通して、生きる力の基礎を培う保育所<br><子ども像> ○あいさつができる子ども ○あかるく元気な子ども ○思いやりのある子ども ○最後までやりぬく子ども ○仲間と協力しあう子ども<br><保育所像> ○一人一人の子どもを大切にする保育所 ○基本的な生活習慣を身につけ、しなやかでたくましい子どもが育つ保育所<br>○夢を育み、子どもの笑顔が輝く保育所 ○保護者や地域から信頼される保育所 ○保小中高の連携を大切にする保育所<br>○地域を理解し、保護者とともに子育てをする保育所<br><保育士像> ○子どもとの信頼関係を大切にする保育士 ○保護者により良い協力関係を築く保育士 ○意欲を育む環境を考える保育士<br>○チームワークを大切にする保育士 ○豊かな人権感覚を身につけた保育士 ○専門性の向上に努める保育士 |                                                                                                                                           |    |                                                                                                                       |    |                                                                                   |
|----------|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 中期経営目標   |                                                | 短 期 経 営 目 標（評価項目）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 自 己 評 価                                                                                                                                   |    | 保育所関係者評価員                                                                                                             |    | 改善策等                                                                              |
|          |                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 達 成 状 況                                                                                                                                   | 評価 | 考 察                                                                                                                   | 評価 |                                                                                   |
| 適正な保育所運営 | ○ 職務分担が適切に機能し、子どもたちのために職員がお互いに協働する保育所を構築する。    | ① 職員一人一人が報告・連絡・相談に努め、協力して保育にあたる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 毎日の昼礼で子どもの姿を報告したり、週案の会やカリキュラム会で学年間の連携を図ったりすることができた。<br>報告・連絡・相談を心がけ、共通認識のもと協力して保育することができた。                                                | B  | 日々の保育や子どもの姿について、昼礼や週案の会、カリキュラム会で共有し、個別の支援体制についても連携が図られている。                                                            | B  | 昼礼や週案の会、カリキュラム会を継続して行い、日々の保育や子どもの姿を共有し、職員間の連携を図りながら協力して保育にあたる。                    |
|          |                                                | ② 保育所の安全計画や防災計画等を見直すなど安全対策を推進する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 年間計画に沿って、さまざまな想定で避難訓練を実施した。実施案に基づき、毎回動きの確認をすることで職員間の共通理解はできていた。状況に応じて臨機応変な行動ができるまでには至らなかった。                                               | B  | 防災に関しての保護者の期待度が高い。避難場所や避難方法について保護者と共に考えることも大事である。                                                                     | B  | より安全により迅速に避難したり、引き渡しが確実に行えたりするよう、保護者と共に考え避難訓練や引き渡し訓練を計画、実施して行きたい。                 |
| 充実した保育内容 | ○ 保育指針に沿って乳幼児の発達に即した保育を展開し望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う。 | ① 保育所経営計画を共通認識し、保育目標達成に向けて、保育の振り返りを行う                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 週案を通してPDCAサイクルで保育を進めようと意識するようになった。週案の「ねらい」の達成度は、園全体を平均すると65%以上であるが、クラス別では75%以上の達成が見られるクラスもある。                                             | B  | PDCAを意識した保育の振り返りができていると思われる。園全体の達成度を上げる取組に期待する。                                                                       | B  | 保育目標達成に向けて、引き続きPDCAサイクルで保育を進め、職員一人一人の資質向上に努めることで、園全体の資質向上につなげていきたい。               |
|          |                                                | ② 一人一人の発達を理解し、豊かな経験が積み重ねられるように環境を整える                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 年間を通して環境構成の在り方を研究してきた。保育者自身の課題を見つめ改善する中で、意識の向上が見られている。子どもの内面理解の難しさが課題である。                                                                 | C  | 子どもの内面理解に努め、環境を整え、豊かな経験が積み重ねられる保育を期待する。                                                                               | C  | 子どもの姿をとおして環境構成の在り方についての研究を引き続き行う。日々の関わりや写真や動画などを用いた研究をとおして子どもの内面理解に努めて行きたい。       |
|          |                                                | ③ 生活と遊びを通して、子どもが自ら意欲をもって食に関わる体験を展開する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 子ども達がより興味関心をもつよう、年間を通して保育室前で栽培するなどの工夫をし、収穫して食べる体験ができた。1, 2歳児は収穫物を食べる体験はできたが、栽培している物への興味を持たせることが十分ではなかった。                                  | C  | 4, 5歳児は栽培物の成長過程に興味をもち世話ができていると思われる。低年齢のクラスについては、保育者が子ども達が興味をもてる関りをしていく努力が必要ではないか。                                     | B  | 年間計画や役割分担を見直し、子ども達が見易い場所に栽培環境を設定し、一緒に世話をする等して豊かな体験の充実を図る。                         |
| 信頼される保育所 | ○ 保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。          | ① 保護者や地域に対して積極的に情報発信を行い、開かれた園づくりに努める                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 保護者が見やすいように、子どもの写真やつぶやきを入れたりなど工夫することで、保育所での子どもの様子を保護者に伝えることができた。保育の意図や子どもが経験していることを伝えるまでには至らず課題が残る。                                       | B  | 保育の意図や子どもが経験していることを分かり易く発信しているクラスがあったり、行事等のドキュメントの掲示があったりした。園全体での取組となるよう期待する。                                         | B  | 保護者の安心につながるよう、便りの中に子どもの成長や発達、保育者が意図していることを取り入れていく。また、行事のドキュメント掲示を継続して行う。          |
|          |                                                | ② 保護者の願いや実情を理解し受け止めながら子育ての楽しさを感じてもらえるように努める                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 話しかけやすい雰囲気づくりや子どもの姿を具体的に伝えることに努めた。子育ての悩みや心配事など相談を受け、保護者の思いに寄り添いながら話をする中で、共に子どもの成長を喜ぶことができた。保護者アンケートのコメントに挨拶や早期保育の受入れ時の対応に関して改善するべき意見があった。 | B  | 保護者アンケートで子どもの成長を喜ぶ感謝の言葉が沢山あった。しかし、厳しい意見が2件ある。この少数意見を大事にしていかなければいけない。また、アンケートの回収率が86%とある。回収率を上げる努力も必要ではないか。今後の取組に期待する。 | C  | 挨拶を積極的に行う。保護者の思いに寄り添い安心して子どもを預けられるようにする。また、参観日や講演会の充実を図り、保護者が子育てを楽しんでいるようにしていきたい。 |

【評価基準】    A：十分満足        B：おおむね満足        C：もう少し努力すべき        D：大いに努力が必要